

【今月の問い】

Q. ニュースダイジェスト **2022年12月号** で紹介した以下の記事を読み、以下の①～③について考えよう。

東京の新築戸建て 太陽光パネル設置義務化

東京都内の新築戸建て住宅などに太陽光発電用のパネル設置を義務づける都の条例改正案が、都議会本会議で可決された。施行は2025年4月となる。戸建てを対象にしたパネル義務化は全国初だという。設置義務は、戸建てやマンションなど延べ床面積2,000平方メートル未満の新築建物の場合、住宅メーカーや販売業者に課される。ただし、対象は都内で年間延べ床面積2万平方メートル以上を施工・販売する業者に絞り、都は約50社を想定している。立地によって日当たりによりが出るため、対象となるすべての建物への設置は求めず、パネルを設置すべき建物の割合を地域の日照量に応じて区分する。設置ペースの確保が難しい屋根面積20平方メートル未満の建物は対象から外した。義務を達成できなかった場合の罰則はないが、都が指導や勧告、事業者名の公表を行う。

(ニュースダイジェスト 2022年12月16日より)

①世界の再生可能エネルギーの普及状況はどうだろうか？

②わが国の太陽光発電以外の再生可能エネルギーの普及状況はどうだろうか？

③そのほか環境にやさしいエネルギーにはどのようなエネルギーがあるだろうか？

※次ページの解説も参考にしよう！

今月のSDGs

※北九州市立大学 地域創生学群 教授 眞鍋和博先生に、ゴール7について解説いただきました。

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



エネルギーをみんなに そしてクリーンに

地球温暖化が進行する大きな原因は、私たちの暮らしや産業を支えるために、石炭や石油を燃やしてエネルギーを得る過程で排出される二酸化炭素が増加していることです。元来は森林や海が二酸化炭素を吸収してくれていたのですが、地球上の人口が急速に増加し排出量が増加している一方で、森林伐採や森林火災などにより吸収力が弱くなって温暖化が進行しているのです。

その対策の中でも再生可能エネルギーの普及は大きなカギを握っています。再生可能エネルギーとは、太陽光、風力、水力、地熱といった自然エネルギーなどにバイオマスなどを加えた、自然界に存在して永続的に利用できるエネルギーのことをいいます。旧来の石炭、石油、天然ガスといった化石燃料による発電から、再生可能エネルギーでの発電に切り替えることによって、電気をつくる際の二酸化炭素の排出を大きく抑えられるのです。地球温暖化を抑制するために、世界全体で再生可能エネルギーを導入していく動きが急速に進んでいます。わが国も2030年に電力生産における再生可能エネルギーの比率を36～38%にし、現在からほぼ倍増させる計画をしています^(※1)。

再生可能エネルギーのうち太陽光発電は、現在一番大きなシェアを占めています。太陽光という誰でも手にできるエネルギーを利用すること、電気をつくる設備が比較的簡易であることなどから普及が進んでいます。皆さんも、一般家庭の屋根だけでなく、工場、駐車場、学校などの屋上にも太陽光発電に用いるパネルを見たことがあると思います。再生可能エネルギーによる発電を増やしていくためには、太陽光発電の普及・促進を急がなければならないのです。今回東京都では、新築戸建てや一定の大きさのビル等の屋上に太陽光パネルを設置することを義務化しました。世界的な潮流に即した取り決めだといえるでしょう。SDGs7番「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」では、ターゲット7.2に再生可能エネルギーの割合を大幅に増加させることが明記されています。風力、地熱、水力などととも、普及を急がなければならないのです。

さらに、ロシアのウクライナ侵攻に端を発したエネルギー危機は、世界のエネルギー生産や供給の考え方を一変しました。その点、再生可能エネルギーは自国内、自地域内での電力生産が可能であるため、エネルギーの安全保障の観点からも注目されています。

しかし、パネルの廃棄や再資源化、パネル設置などによる環境破壊、高い電気価格、送電ロス、蓄電池の性能、などのさまざまな問題があります。新しいテクノロジーの開発が求められるといえるでしょう。

※1…資源エネルギー庁「エネルギー基本計画」

https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/pdf/20211022_01.pdf